

# 証し

## 知っておきたいキリスト教のことば (3)

わたしが教会に行き始めたのは、中学生の時でした。そのころ通っていたバプテスト系の教会では、よく「証し」がおこなわれていました。牧師が他の教会に行くために信徒だけで礼拝を守る日、週報の「説教」のところには「証し」と書かれ、信徒の人たちが交代でお話していました。

もうずいぶん前の話ですから、どのような内容の「証し」がおこなわれていたのかは覚えていません。しかし、日常で使う「証し」という言葉のイメージとはずいぶん違うな、と思った記憶があります。

「証(し)」という言葉の辞書で引いてみました。まず一つ目の意味としては、確かであるというしるし、また証明することとありました。「愛の証」というように用います。また二つ目には、潔白であること、疑いを晴らす証拠という意味だそうです。「身の証を立てる」という例文が載っていました。しかし、キリスト教では「証し」とは、ある人の宗教的体験の告白を指します。宗教的体験とは、イエス様に出会い、イエス様を救い主と信じたことで自分が変えられたり、毎日の暮らしの中で神さまからお恵みをいただいたりしたことです。「証し」とは、その出来事を人に伝えることなのです。

聖書に出てくるイエス様の弟子のペトロや、多くの手紙を残したパウロも、復活のイエス様との出会いを通して自分が変えられたことを「証し」しています。そしてその後 2000 年間にわたって、様々な所でたくさんの方が神さまを賛美し、神さまに感謝しながら、「証し」をしてきたのです。

わたしたちは日々、神さまからたくさんの恵みをいただいています。その喜びを自分の内に秘めてしまわないで、どうぞ多くの人たちと分かち合ってください。イエス様はわたしたちがそれらのことを、多くの人に伝えること、すなわち「証し」を望んでおられます。

次回は「贖い(主)」です。お楽しみに。

